

9月も半ば過ぎでしたが、暑さの戻ってきた17日(敬老の日)に、本庄、坂東大橋のたもとにある本庄市老人福祉センター「つきみ荘」にて小島地区の75歳以上の高齢者を招いての敬老感謝の集いのアトラクションの一つとして招かれました。

9月1日に公演を行った本庄西公民館での「さわやかサロン」の主催の方から、今回の敬老会に急遽の出演依頼を受けての公演でした。

今回の敬老会には約140名の参加でセンターは満席状態でした。テーブルの上には、お赤飯、お惣菜、焼き鳥のパックや缶ビール、お茶が並び、豪華な敬老感謝の集いです。

11時から始まり、来賓あいさつなどのあと11時15分ころからアトラクション開始、地域の公民館長の「漫談」、続いて「マジック」、「どじょうすくい」などの演目があり、我々の「南京玉すだれ」は4番目の演目でした。



いよいよ出番となり、玉すだれの出し物はいつもの「基本」、「ああ人生に涙あり」、「きよしのズンドコ節」そして「麦畑」の4つを行いました。

座長がいつもは「衣装七分、演技三分」と話してますが、今回は出演者に「チンドン屋」さんがおられ、金キラキンの衣装で派手さでは負けました…

そこで今回は「衣装五分、演技五分」で、演技の割合を増やして演じますと話し、皆さんから拍手を頂きました。





オカリナ演奏は「四季の歌」と「ふるさと」を演奏し、歌詞カードを舞台上で掲げましたが、今回の会場は広すぎて、後方の方には見えませんでした。

しかしながら、皆さんなじみの曲のため、一緒に口ずさんで頂くことができました。



衣装から着替えて、今度は我々も出演者の席で、参加者と同じお弁当を少し頂き、後は持帰りにしました。我々にもお土産を頂き、公民館を後にしました。

帰りに「岡部道の駅」でお茶をして、帰途につきました。

記： 加藤 治朗
写真撮影：中山 陽子